

さんとめ通信 4号 2024・6月

さんとめどんぐり村運営委員会

5月3日に「どんぐりヤマ春の生き物調査」が開催されました。

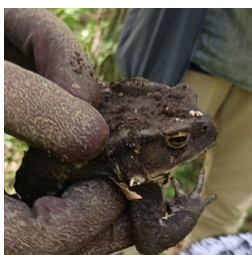
2家族6名の参加者と一緒に、いろいろな生命との出会いがありました。

晴天で風もなく、最適の調査日となりました。運営委員の井草さんを講師に、5月初めのどんぐりヤマを歩きながら、皆で生き物探しを行ないました。集合場所のステージから出発。先ず、通路沿いに生えているウグイスカグラの赤い実を味わってもらいました。春の七草も有名ですが、どんぐりヤマにも、時期さえ合えば、お茶にしたり、食用にできる植物がいろいろ見つかります。「ヤマの季節を味わおう！」みたいな企画もいつかやってみたいですね。

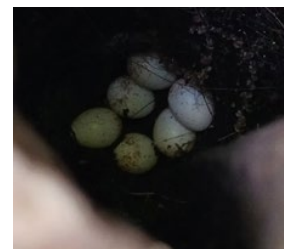


昨年の植生調査図を下敷きに、井草さんの話を聴きながら、廻ってゆきました。昨年には記入されていなかった「ニガナ」の黄色い花の群れが目につきました。撤去した旧堆肥場と新堆肥場の間には、薬草やお茶になる「カキドオシ」の葉が一杯でした。5月の緑がほとぼしる中、「クサイチゴ」の白い花も、点々と灯っていました。

逆に「ギンラン」が昨年の場所に見つかりませんでした。「ササバギンラン」は残っていました。まだ時期が早かったのかも知れません。コナラとクヌギの見分け方も教わりました。木肌に四角い紋がコナラ、三角の紋がクヌギです。「くぬぎ山」の名称はあるのですが、現在は道路近くの二股の1本しか残っていないそうです。



焚火場で片づけをしていた菊一さん・岩井さん達が枝の下から出て来たカエルを、持ってきてくれました。雑木林でオタマジャクシが生きられたのが不思議でしたが、大きなカエルに男の子は大喜びでした。生き物好きな彼は、切り株の奥のカナヘビの卵6個も発見してくれました。君には才能を感じます。



「フタリシズカ」「オトコエシ」「ヤブコウジ」「サルトリイバラ」「ヤマユリ」など、ほぼ昨年と同じ座標に生息していました。ステージ裏手をめぐると、「キンラン」も複数、確認できました。「オオバノトンボソウ」も数が減りましたが発見できました。「サイハイラン」も、棒のような姿ですが、生存していました。

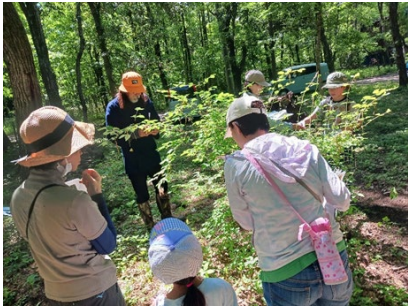




祭日なので、工場の作業音もなく、調査の間、鴉がずっと鳴いていました。お昼近くには、コジュケイの声が、それに代わりました。華やかさはなくとも、新緑の彩りのなか、さまざまな生命にふれあうことができました。

連休初日にどんぐりヤマを選んでくれた応募の皆さん、講師を務めてくれた井草さん、ほんとうにお疲れ様でした。今度は夏休み、カブトムシたちと一緒に、どんぐりヤマで、またお会いしましょう。(赤間)

【アンケートの感想より】 写真(図)を見ながら実際の植物を見る事ができ良かったです。教えていただかないと、見過ごしてしまうような植物ばかりでした。木漏れ日の中、足元の草もまだ小さく歩きやすく気持ちの良い体験でした。ありがとうございました。(M.M)



解説してもらいながらで、よく分かって良かったです。

とても気持ちのいい天気でした。食べられる実もあって発見でした。(Y.A)



普段見られない、知らない植物を見ることが出来て良かったです。かなへびの卵が切り株の中にあり、珍しいものが見れて良かったです。アズマヒキガエルもいて可愛かったです。とても楽しく参加できました。ありがとうございました。(A.U)

